

(講座) 分子創薬科学 (研究室) 分子薬理学
(氏名) 藤田 亮介 (職名) 助手

【研究テーマ】

1. 神経系受容体と G 蛋白質の情報伝達に関する研究
2. ストレスと神経細胞死および神経新生と関連遺伝子群のクローニング解析に関する研究
3. 痛みの分子薬理、分子生理学に関する研究
4. 脳に存在する新しい受容体と新しい内在性物質の探索、クローニングに関する研究

【論文発表】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Ueda M, Fujita R, Koji T, and UEDA H: The cognition-enhancer nefiracetam inhibits both necrosis and apoptosis in retinal ischemic models in vivo and in vivo. J Pharmacol Exp Ther. 2004 Apr; 309(1) 200-207.
2. Inoue M, Rashid MH, Fujita R, Contos JJ, Chun J, Ueda H: Initiation of neuropathic pain requires lysophosphatidic acid receptor signaling, Nature Med; 2004 Jul; 10(7) p712-718.

(A-b) 総説

1. Ueda H.: Cell death mode switch from necrosis to apoptosis in brain; Current Topics Mitochondria and Neuroprotection; Bio Pharm. Bull; 2004July; 27(7); 950-955.

(A-c) 著書

該当無し

(A-d) 紀要

該当無し

B 邦文

(B-b) 総説

該当無し

【学会発表】

A 国際学会

(A-a) 招待講演, 特別講演, 受賞講演

該当無し

(A-b) 一般講演

1. R. Fujita, M. Inoue, H. Ueda. LPA induces dorsal root demyelinating neuropathic pain, 34th Annual Meeting of Society for Neuroscience, San Diego, 2004. 10

B 国内学会

(B-a) 招待講演, 特別講演, 受賞講演

1. 藤田亮介、植田弘師: 脱髄における LPA シグナルと神経因性疼痛発生機序、第 125 回日本薬学会年会、2004 年 3 月 (東京)

(B-b) 一般講演

- 1.
2. 濱邊和歌子、藤田亮介、植田弘師: In vitro 虚血モデルにおけるプロテインキナーゼ C γ 活性化を介したインスリンの神経ネクロシス抑制効果、第 77 回日本薬理学会年会、2004 年 3 月 (大阪)
3. 植田弘師、藤田亮介、濱邊和歌子、植田睦美、當房優子: 神経細胞死ネクロシスとその保護機構、平成 16 年度日本生化学会九州支部例会、2004 年 5 月 (熊本)
4. 藤田亮介、植田弘師: 神経因性疼痛に見られる脱随現象とリゾホスファチジン酸、第 57 回日本薬理学会西南部会、2004 年 11 月 (福岡)
5. 溝田香緒里、藤田亮介、植田弘師: 神経ステロイド及び内分泌攪乱物質による肥満細胞における Gq/11 連関型受容体を介した脱顆粒応答調節、第 21 回日本薬学会九州支部大会、2004 年 12 月 (長崎)

【研究費取得状況】

該当無し

【学会役員等】

該当無し

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	13 編	(邦文)	0 編
総説 (欧文)	1 編	(邦文)	0 編
著書 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
紀要 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
特許	0 件		